

徳島県勝浦町から発見された日本最古級のイグアノドン類の尾椎と歯化石について

徳島県立博物館が、勝浦町において福井県立恐竜博物館や福井県立大学恐竜学研究所などと共同に行った令和3年度の恐竜化石含有層の発掘調査で、日本最古級のイグアノドン類の尾椎と歯化石を発見しました。イグアノドン類の尾椎は、徳島県で初めての発見であり、7月1日（金）から7月3日（日）まで金沢大学（ホスト校）でオンライン開催される日本古生物学会2022年年会にて発表を行いました。

1 資料についての情報

<経緯>

平成6年4月、徳島県勝浦町から四国初となるイグアノドン類の歯化石が発見されました。平成28年7月には、同町から県内化石愛好家により竜脚類の歯化石が発見され、その後の徳島県立博物館の研究チームによる調査により、平成30年に恐竜化石含有層を特定しました。同年より当館は、本格的な掘削調査を開始し、現在までに、獣脚類の骨や歯化石、カメ類化石など多くの脊椎動物を発見しています。

令和3年度は、恐竜化石含有層から徳島県では初めてとなるイグアノドン類の尾椎（尻尾の骨）の化石を発見することができました。

<発見について>

- (1) 発見場所 徳島県勝浦町 恐竜化石発掘現場（非公開）
- (2) 地層名 立川層
- (3) 時代 前期白亜紀（約1億3000万年前）
- (4) 種類 イグアノドン類（鳥脚類）



イグアノドン類の生体復元画（©山本 匠）

- (5) 発見日 尾椎（令和3年12月3日）、歯（令和3年12月14日）

<発見化石>

(1) 尾椎 (1点)

- ・特徴：椎体（下半分の前後の尾椎と連結する関節部分）が六角形であることや血道弓（尾椎の下で連結する骨）との関節面が後方の端にのみ存在すること、神経棘（上に伸びる突起）が発達していないことなどから、尻尾の中央から後方に位置する尾椎であることがわかります。
- ・大きさ：83mm×78mm×55mm（前後長×高さ×幅）



(2) 上顎骨歯 (1点)

欠損している場所がなく、自然に脱落あるいは遊離した歯です。

- ・特徴：歯冠の唇側には中央に1本の稜があり、かみ合わせによりすり減った咬合面が残されています。
- ・大きさ：10mm×6mm×4mm（長さ×幅×奥行き）



2 意義

- ・日本最古級（約1億3000万年前）のイグアノドン類の骨および歯化石
- ・勝浦町の恐竜化石発掘調査で、初めて発見されたイグアノドン類の骨化石
- ・イグアノドン類の歯化石は、徳島県から27年ぶりの発見
- ・日本産のイグアノドン類の化石は、福井県勝山市産のフクイサウルスやコシサウルスが知られているが、今回の徳島県勝浦町産の化石の年代はそれより古く、アジア全体でも、同時代のものはほとんど発見されていない。
- ・徳島県勝浦町の恐竜化石産地は、太平洋側の地域（西南日本外帯）として稀少であり、今回の発見は、前期白亜紀のイグアノドン類の古生物地理学的考察をするうえで重要

3 一般公開について

- ・日時 7月12日（火）～12月28日（水）
- ・場所 実物：徳島県立博物館常設展示室 徳島恐竜コレクション